

日本ストーマ・排泄リハビリテーション地方会

第47回

東京ストーマリハビリテーション 研究会

プログラム・抄録集

テーマ **排泄障害とともに生きる**

会期 2015年9月5日(土) 10:00~17:00

会場 日本赤十字看護大学 広尾ホール

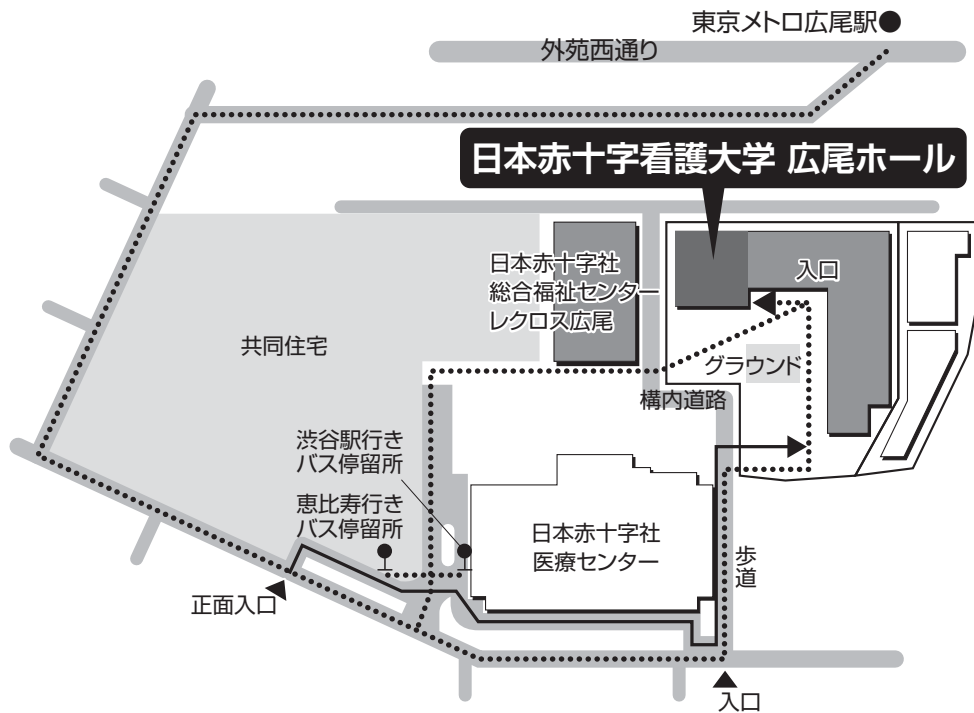
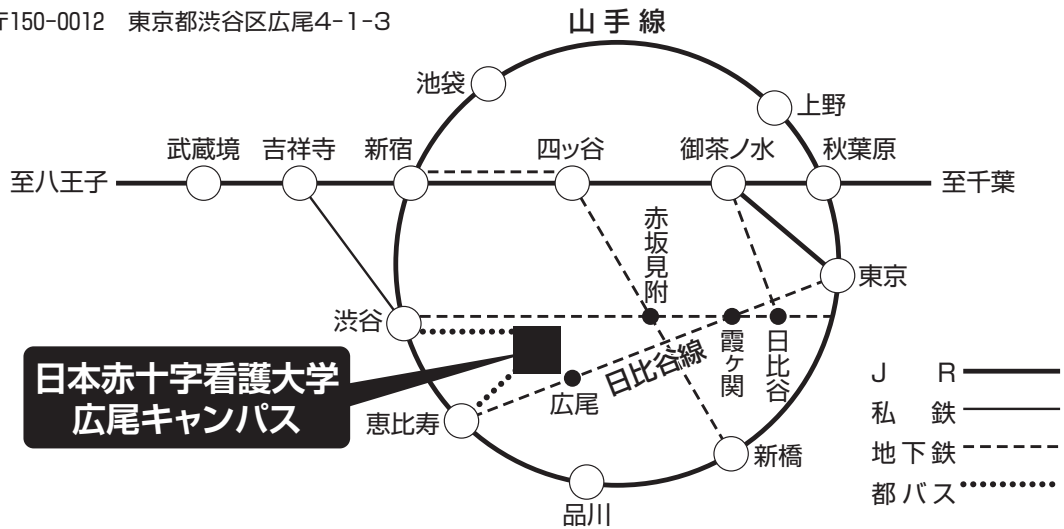
当番世話人 佐々木 貴代 日本赤十字社医療センター 看護部

東京ストーマリハビリテーション研究会 会長 船橋 公彦

交通のご案内

会場：日本赤十字看護大学 広尾ホール

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3



● 渋谷・恵比寿からバスをご利用の場合

渋谷駅東口から(JR・東急・京王・東京メトロ)

..... 都営バス(学03)系統：日赤医療センター行き 終点下車(約15分)

恵比寿駅西口から(JR・東京メトロ)..... 都営バス(学06)系統：日赤医療センター行き 終点下車(約15分)

ご注意

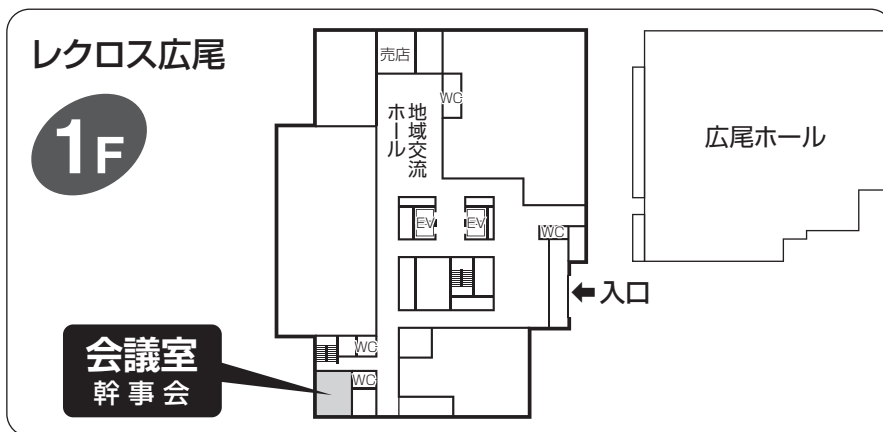
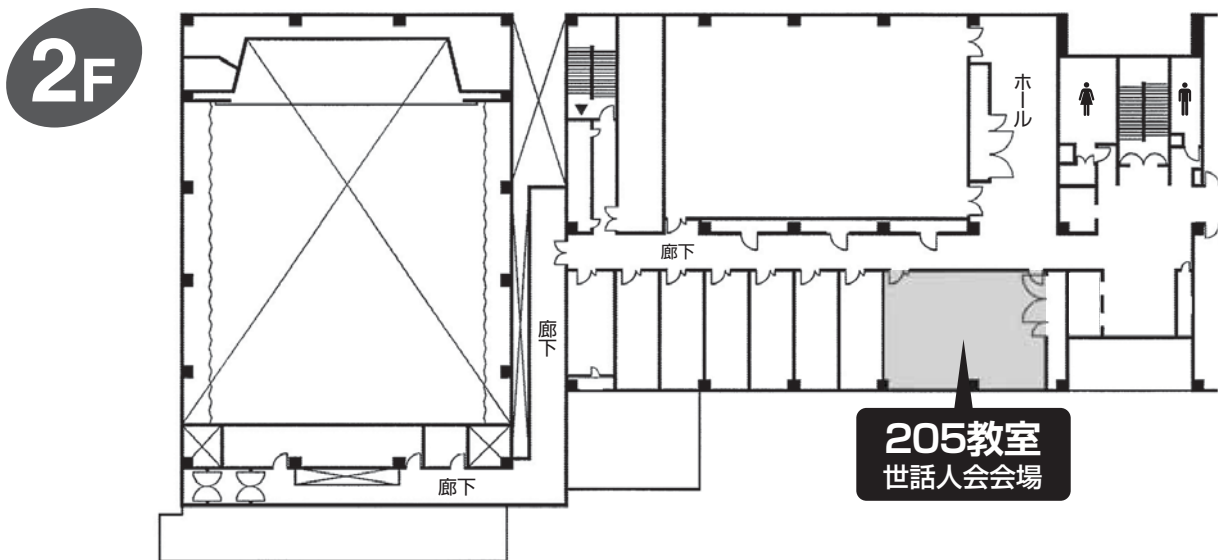
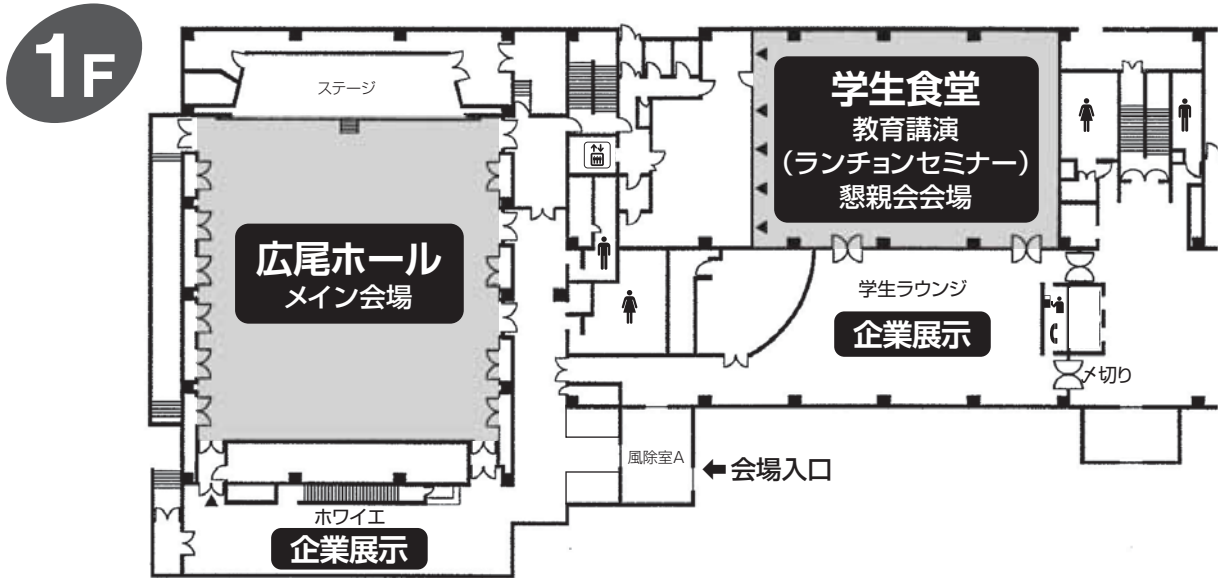
都営バス黒77系統(千駄ヶ谷駅←→目黒駅)、並びに品97系統(新宿駅西口←→品川駅)にある「日赤医療センター下」バス停からは、徒歩で約15分かかる上、ややきつい登り坂を通ります。

また、案内の看板なども出ておりませんので、渋谷駅または恵比寿駅から出発している「日赤医療センター」行きバスのご利用をお勧めします。

● 地下鉄広尾駅から徒歩で来られる場合

東京メトロ日比谷線 広尾駅から徒歩(約15分) ※ややきつい登り坂です

会場のご案内



ご注意 敷地・建物内は禁煙となっております。

	広尾ホール メイン会場	学生食堂 懇親会会場、他	広尾ホール ホワイエ 学生ラウンジ	2F 205教室	レクロス 広尾1F 会議室
9:00					9:00~ 10:00 幹事会
9:30~	開場・受付開始				
10:00	10:00~10:05 開会挨拶		9:30 ~ 15:30 企 業 展 示		
	10:05~10:55 一般演題 I 座長：渡部 通章 厚木市立病院 小嶋 麻里 東京医科大学付属病院				
11:00	11:00~11:50 特別企画 老いとともに生きる 司会：南 由起子 サンシティ横浜 演者：野島 陽子 東京都健康長寿医療センター 白取 絹恵 東京都健康長寿医療センター				
12:00		12:10~13:00 教育講演(ランチョンセミナー) 副作用に負けずに生きる 司会：遠藤 健 顕正会 蓮田病院 演者：山崎 直也 国立がん研究センター中央病院 野澤 桂子 国立がん研究センター中央病院 協賛：武田薬品工業株式会社			
13:00					13:10 ~ 14:10 世 話 人 会
13:30~14:00	マンドリン演奏				
14:00	14:10~14:50 一般演題 II 座長：廣澤 知一郎 東京女子医科大学 江川 安紀子 慈恵医科大学付属第三病院				
15:00	15:10~16:40 シンポジウム 災害時に生き抜く 司会：板橋 道朗 東京女子医科大学 田村 由美 日本赤十字看護大学 演者：天江 新太郎 宮城県立こども病院 丸山 嘉一 日本赤十字社医療センター 加藤 篤 NPO法人 日本トイレ研究所 寅尾 元 アルケア株式会社 大村 裕子 東京オストミーセンター				
16:00	16:40~17:00 閉会挨拶 次期当番世話人会告・表彰・スタンブラリー抽選				
17:00		17:30~19:30 懇 親 会			

「**老いとともに生きる**
～その人らしい“生活”を支えるため、私達の役割を考える～」

1 高齢者の“生活”を支えるための支援について
～ストーマ外来に通院する患者を通して WOCN としての役割を考える～

野島 陽子 東京都健康長寿医療センター看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師

2 ウロストミーのある認知症高齢者の退院を支える
～外来でのサポートから、入院、そして退院後の生活を支えるために～

白取 絹恵 東京都健康長寿医療センター看護部 認知症看護認定看護師

休憩 11:50～12:10

教育講演(ランチョンセミナー) 12:10～13:00

(学生食堂)

司会: 遠藤 健(顕正会 蓮田病院)

「**副作用に負けずに生きる**
～がん治療に伴う外見変化に対するチームアプローチの実際～」

協賛: 武田薬品工業株式会社

1 分子標的治療薬の皮膚障害対策

山崎 直也 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 科長

2 大腸がん化学療法とアピアランスケア ～患者の「生きる」を支援する～

野澤 桂子 国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター長

休憩 13:00～14:10

マンドリン演奏 13:30～14:00

メイン会場(広尾ホール)

座長：廣澤 知一郎(東京女子医科大学第二外科)

江川 安紀子(慈恵医科大学附属第三病院 看護部)

Ⅱ-1 オストメイトが行なうオストメイトのためのオリエンテーション

○清水 知子¹⁾、橋口 明信¹⁾、福永 拓也¹⁾、阿部 愛¹⁾、成松 紀代¹⁾、坂入 歩美¹⁾、
酒井 花¹⁾、朝蔭 直樹²⁾、西田 勝則²⁾

1)医療法人社団愛友会 津田沼中央総合病院 看護部、2)同 外科

Ⅱ-2 骨盤内臓全摘術後の人工肛門周囲に発生した皮膚潰瘍の1例

○長嶋 康雄¹⁾、船橋 公彦¹⁾、三上 哲夫²⁾、本間 尚子²⁾、吉野 優¹⁾、岡田 嶺¹⁾、
吉田 公彦¹⁾、甲田 貴丸¹⁾、鈴木 孝之¹⁾、新井 賢一郎¹⁾、金子 奉暁¹⁾、牛込 充則¹⁾、
塩川 洋之¹⁾、栗原 聰元¹⁾、小池 淳一¹⁾、澁谷 和俊²⁾、島田 英昭¹⁾、金子 弘真¹⁾

1)東邦大学医療センター大森病院 一般・消化器外科、2)同 病院病理

Ⅱ-3 直腸癌骨転移再発に対する重粒子線治療後に股関節内に結腸穿孔を来した一例

○天野 隆皓¹⁾、佐々木 貴代²⁾、田中 滋之³⁾、森谷 宜皓⁴⁾

1)日本赤十字社医療センター 大腸肛門外科、2)同 看護部、3)同 骨関節整形外科、4)美希病院 外科

Ⅱ-4 当院における消化管ストーマ管理困難の現状調査

○伊藤 麻紀、佐々木 貴代、大沢 順子

日本赤十字社医療センター 看護部

休憩 14:50～15:10

シンポジウム 15:10～16:40

メイン会場(広尾ホール)

司会：板橋 道朗(東京女子医科大学第二外科)

田村 由美(日本赤十字看護大学災害看護学 国際看護学(共同大学院 DNGL))

〔 災害時に生き抜く
～あれから5年 東日本大震災から何を学び、どう役立てるか～ 〕

1 東日本大震災における当院の状況と患児たちの QOL について

天江 新太郎 宮城県立こども病院 外科

2 首都直下型地震に備える

丸山 嘉一 日本赤十字社医療センター 国内医療救援部、肝胆脾外科

3 震災時のトイレ事情

加藤 篤 特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事

4 首都圏震災時のオストミー装具供給体制

寅尾 元 アルケア株式会社 取締役営業管掌

5 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会災害対策

大村 裕子 東京オストミーセンター 代表

閉会挨拶 16:40～17:00

メイン会場(広尾ホール)

次期当番世話人会告

次期当番世話人：渡部 通章(厚木市立病院 外科)

AWARD 表彰

当番世話人：佐々木 貴代(日本赤十字社医療センター 看護部)

スタンプラリー抽選

閉会挨拶

研究会副会長：高波 眞佐治(東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科)

懇親会 17:30～19:30

懇親会会場(学生食堂)

第4回東京ストーマリハビリテーション研究会

運営委員

実行委員長：佐々木 貴代

副実行委員長：大沢 順子、伊藤 麻紀、遠藤 健

プログラム：佐々木 貴代、間所 理恵、山田 彩華

広報：伊藤 麻紀、遠藤 健

会計：大沢 順子

運営：坂本 一博、三浦 英一朗、工藤 礼子、秋山 結美子、江川 安紀子、
寺尾 多恵子、豊田 麻美子、浦口 るみ子、住田 莉佳、山田 彩華、
高橋 清子、谷口 万葉、杉澤 麻樹、井出 拓也、森下 吉野、
高麗 ひとみ、金川 梨絵、松山 さくら、中垣 祐月、坂本 里美、
永島 麻衣、玉木 絢子、秋山 花乃、矢野 純子、下川 綾加、伊藤 佳恵、
笠畑 めぐみ、間所 利恵、有松 舞子、山口 瞳、鬼頭 幸子、
志水 さおり、河内 あゆみ、菊地 美香、板垣 咲、木村 麻佑子、
河西 優、富樫 春香、深山 里子、鈴木 秀子

特別企画

老いとともに生きる ～その人らしい“生活”を支えるため、 私達の役割を考える～

司会

南 由起子

サンシティ横浜

南 由起子先生 ご略歴

聖路加看護大学卒業後、聖路加国際病院 外科混合病棟勤務

1988年 ET ナースの認定取得 病棟主任業務と兼務で専門領域の活動にも従事する

1995年 聖路加国際病院 外科病棟ナースマネジャー(師長)となり、ET ナース業務と
中間管理職業務を兼務

1999年 日本看護協会認定看護師教育課程 WOC 看護認定看護師の認定取得(移行措置)
以降退職までナースマネジャー業務と皮膚・排泄ケア認定看護師業務を兼務

2009年3月 聖路加国際病院退職

2009年4月 聖路加看護大学大学院入学：看護学研究科 博士前期課程 看護管理学専攻

2011年3月 上記大学院修了

2011年4月 埼玉社会保険病院に入職 看護局長として勤務

2013年1月 社会保険協会連合会本部に看護部次長として勤務

2014年3月 社会保険協会連合会の組織改編(地域医療機能推進機構へ)に伴い退職

2014年4月 サンシティ銀座 EAST ロイヤルケア支配人として勤務

2015年8月 サンシティ横浜へ異動

所属学会など

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会理事、日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事、
日本創傷・オストミー・失禁管理学会評議員、日本褥瘡学会評議員、日本看護管理学会

高齢者の“生活”を支えるための支援について ～ストーマ外来に通院する患者を通して WOCN としての 役割を考える～

野島 陽子

東京都健康長寿医療センター看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師

当センターの外来を訪れる患者は高齢者が多く、誰もが何らかの喪失体験をしながら生活している現状がある。その為、今まで通りの生活を送る事に不安や恐怖、淋しさを感じている患者も多い。高齢者は加齢により心身ともに個別性が高くなると言われている。私達医療者は、この個別性を十分に踏まえたケアを提供する必要がある。老いを感じ戸惑いながらも生きている患者達の想いを知り、老いとともに生きる、その人らしい生活の方法について支援する事も重要である。

ケア外来は、病変部や局所だけを見る場所ではなく、その患者自身を見て、生活を見て、家族をも見る場所である。外来を通し、繋がり合っている私達の立場を存分に活かし、患者の変化に素早く対応することも重要な役割の一つである。

ストーマ外来で関わっている多くの患者達から日々私達が学んでいること、考えさせられる多くのことを「私達の役割とは何か」という視点から報告したい。

野島 陽子先生 ご略歴

- 1999年 東京都老人医療センター（現東京都健康長寿医療センター）
消化器外科・婦人科混合病棟に勤務
- 2006年 日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程
WOC看護学科（現皮膚・排泄ケア学科）入学
- 2007年 同校卒業
皮膚・排泄ケア認定看護師を取得。
同年、6月から看護部の所属となり、専従での活動を開始。
- 2009年 東京都老人医療センターが地方独立行政法人に移行
- 2010年 看護師長に就任、現在に至る。

シンポジウム

災害時に生き抜く ～あれから5年 東日本大震災から 何を学び、どう役立てるか～

司 会

板橋 道朗(東京女子医科大学第二外科)

田村 由美(日本赤十字看護大学災害看護学 国際看護学(共同大学院DNGL))

板橋 道朗先生 ご略歴

昭和59年 北里大学医学部卒業
昭和59年 東京女子医科大学
第2外科入局
平成13年 同 講師
平成21年 同 准教授
現在に至る

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本大腸肛門病学会専門医・指導医・評議員
日本大腸検査学会評議員
日本ストーマ排泄リハビリテーション学会
理事・評議員
日本腹部救急医学会評議員
日本外科感染症学会評議員
日本外科系連合学会評議員
ストーマ認定士
難病指定医(炎症性腸疾患)

田村 由美先生 ご略歴

日本赤十字看護大学教授(共同大学院博士課程災害看護学グローバルリーダープログラム)
学歴: 松山赤十字看護専門学校卒業。仏教大学社会福祉学部社会福祉学科卒業と同時に渡英し、2006年、ロンドンサウスバンク大学(LUSB) インタープロフェッショナルヘルス&ウェルフェア研究科(英国)修了。2003年から2007年まで同大学院博士課程在籍。2012年、博士(人間科学・早稲田大学)。
職歴: 松山赤十字病院入職し臨床看護師経験を積む中で、1987年に聖路加ETスクールクリーブランドクリニック分校修了(Enterostomal Therapist 認定)。2000年日本看護協会認定看護師教育課程移行措置により現在の皮膚・排泄ケア認定看護師(2005年、2010年更新)。日本 WOCM 理事(2015年5月まで)、現在評議員。松山赤十字病院勤務時代に2回の日本赤十字国際救援活動(1990年アフガン難民救援活動、1991年アルメニア大地震復興支援活動)に従事する。
1996年4月より香川医科大学医学部看護学科(現香川大学医学部看護学科)を機に教育研究職。2001年4月より神戸大学医学部保健学科。2011年4月より滋慶医療科学大学院大学。2014年4月より現職。

東日本大震災における当院の状況と 患児たちの QOL について

天江 新太郎

宮城県立こども病院 外科

当院は、仙台市の内陸に位置するため津波被害はなく、免震構造であったため病院建物の被害は非常に軽微であった。そのため後方支援をすべく ICU、NICU に空床を設ける努力を行った。しかし、震災後約1週間、通信手段が途絶えたことにより他の医療機関や救急隊からの連絡が入らず、中等～重症患者の受け入れに支障を生じた。各診療科はおよそ1～2名が24時間院内に泊まり急患・不測の事態に備えた。しかし、これも通信手段途絶と交通手段の麻痺により直接来院者以外に搬送されてくる患児は多くはなかった。被災地への支援活動は東北大学病院の支援チームに合流する形で参加した。震災後に行った在宅ケアを行っている患児に対する調査では、避難所において様々なケアが困難であった状況が明らかとなった。東日本大震災からの教訓としては、通信手段の確保、在宅ケア物品のストック、外来治療中の患児に対する緊急時来院の周知などが重要と思われた。

天江 新太郎先生 ご略歴

1992年3月	東北大学医学部卒業
1992年6月	八戸市立市民病院外科研修医
1999年3月	東北大学大学院医学系研究科 学位取得
1999年4月	東北大学小児外科医員
2001年7月	いわき市立総合磐城共立病院小児外科 医長
2003年4月	東北大学病院小児外科助手
2005年4月	東北大学病院小児外科講師・外来医長
2007年5月	東北大学病院小児外科准教授・副科長
2008年6月	宮城県立こども病院外科部長、東北大学医学部臨床准教授
2010年4月	宮城県立こども病院外科部長・栄養管理部門長、東北大学医学部臨床准教授
2014年4月	宮城県立こども病院外科科長・栄養管理部門長、東北大学医学部臨床准教授、NST チェアマン

現在に至る

資格：医学博士、小児外科専門医、小児外科学会専門医、小児外科指導医

加盟学会

日本外科学会、日本小児外科学会（評議員）、日本小児泌尿器科学会、日本移植学会、日本内視鏡外科学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、日本静脈経腸栄養学会、日本外科代謝栄養学会、日本小児栄養消化器肝臓学会、日本小児外科代謝研究会（幹事）、東北ストーマリハビリテーション研究会（世話人、監事）、東北小児肝胆膵消化管研究会（世話人）、日本小児ストーマ・排泄管理研究会；（幹事、装具等検討委員会委員）、The Pacific Association of Pediatric Surgeons；member

教育講演 (ランチョンセミナー)

副作用に負けずに生きる ～がん治療に伴う外見変化に対する チームアプローチの実際～

司会

遠藤 健

顕正会 蓮田病院

遠藤 健先生 ご略歴

- 1975年3月 東京医科歯科大学医学部卒業
1975年4月 東京医科歯科大学医学部第2外科学教室入局
1979年10月 日本赤十字社医療センター外科勤務
2007年4月 日本赤十字社医療センター大腸肛門外科部長
2010年4月 日本赤十字社医療センター副院長(2015年3月退任)
2015年7月 顕正会「蓮田病院」院長 大腸肛門外科部長

参加学会

- 日本外科学会 指導医 専門医
日本消化器外科学会 指導医 専門医 消化器外科治療認定
日本大腸肛門病学会 指導医 専門医 評議員
日本臨床外科学会 評議員

専門分野

- 下部直腸癌に対する肛門温存手術(括約筋間直腸切除術 ISR)
小開腹による大腸癌低侵襲手術

協賛：武田薬品工業株式会社

分子標的治療薬の皮膚障害対策

山崎 直也

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 科長

山崎 直也先生 ご略歴

1985年3月 岐阜大学医学部卒業
岐阜大学医学部皮膚科学教室入局
1987年6月 国立がんセンター第19期レジデント
1990年6月 国立がんセンター第1期がん専門修練医
1992年6月 国立がんセンター中央病院皮膚科医員
2003年4月 国立がんセンター中央病院遺伝子免疫療法室医長
2005年5月 国立がんセンター中央病院皮膚科医長
2010年6月 国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科科長

学会など：日本皮膚悪性腫瘍学会 副理事長
日本癌治療学会 代議員
日本皮膚外科学会 評議員
日本バイオセラピー学会 評議員
Sentinel Node Navigation Surgery 研究会 世話人

資格：日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

一般演題

肛門温存手術における回腸人工肛門造設術の功罪

○宗像 慎也、牧野 有里香、茂木 俊介、河野 眞吾、塚本 亮一、
市川 亮介、呉 一眞、青木 順、岡澤 裕、高橋 里奈、水越 幸輔、
髙原 一裕、丹羽 浩一郎、石山 隼、杉本 起一、神山 博彦、高橋 玄、
小島 豊、五藤 倫敏、富木 裕一、坂本 一博

順天堂大学医学部 下部消化管外科

【目的】 肛門温存手術時に回腸人工肛門は縫合不全を軽減できる可能性があるが、ストーマ関連合併症(SRC)も少なくはない。今回その合併症について case report form (CRF)を作成し、当科での検討を retrospective に行った。

【対象・方法】 2006-14年に直腸癌に対し回腸人工肛門造設群：92例と非造設群：88例について患者背景、腫瘍因子、術後短期合併症を比較検討した。さらに術後在院日数が延長した原因について多変量解析を行った。

【結果】 術後合併症は造設群：31例(33.7%)、非造設群：14例(15.9%)で造設群に有意に多かった($p=0.0062$)。また手術を必要とする合併症は、造設群：3例(3.3%)、非造設群：6例(6.8%)であった($p=0.32$)。縫合不全は、造設群：8例(8.7%)、非造設群：12例(13.6%)で有意差は認めなかったが、再手術を要した縫合不全は、非造設群のみに5例(5.7%)認めた($p=0.03$)。一方、SRCは造設群に14例(15.4%)に認めた。その内訳はストーマ狭窄：8例、脱水などの電解質異常：5例などであった。術後在院日数は造設群で有意に延長しており($P=0.0009$)。その背景には、ストーマ造設($p=0.0037$)、SRC($p=0.002$)、縫合不全($p < 0.0001$)、イレウス($p=0.0002$)が選択された。

【結語】 回腸人工肛門造設により縫合不全の重篤化は回避できたが、SRCが増加し、術後在院日数の延長につながっていた。このCRFを用い今後多施設共同試験で症例を積み重ねていきたい。

当院における消化管ストーマ管理困難の現状調査

○伊藤 麻紀、佐々木 貴代、大沢 順子
日本赤十字社医療センター 看護部

【背景】ストーマ管理困難（以下、管理困難）のケアは難易度が高く、看護スタッフのストーマケアへの苦手意識につながる恐れがある。今後の教育体制や病棟支援のあり方を検討するために現状調査を行なった。

【目的】成人消化管ストーマの管理困難に影響する要因について調査する。

【方法】対象2014年4月1日～2015年3月31日の間に当院で造設された成人消化管ストーマ。

1. ストーマ観察記録、診療録、看護記録より、①属性（入院診療科・術式・既往歴・入院病棟・その他の身体情報）、②現病歴、③ストーマサイトマーキング実施の有無、④社会復帰用装具を選択する術後5-7日目のストーマに関する情報（造設部位・種類・形状・高さ・排泄物の性状・早期合併症・皮膚障害等）、⑤その他を抽出する（後ろ向き調査研究）。
2. 術後3-14日の間に予定外に装具交換を実施した群と非群において、これらの要因を比較検討する。

【結果】対象ストーマは61。

1. 入院診療科は大腸肛門外科55、胃食道外科4、婦人科1、その他1、入院病棟は大腸専門33、その他の外科22、それ以外6、再発・転移による手術は34だった。ストーマサイトマーキングは実施52だった。各項目で最も多かったものは、造設部位回腸23、種類係蹄式34、永久ストーマ41だった。
2. 予定外の装具交換を実施したのは17（平均3.06回）で、大腸専門病棟以外の方が多かった。術式は根治を目的としないストーマ造設9、ISR + 一時的回腸係蹄式ストーマ5だった。ストーマは楕円形で、高さ10mm以下、周囲4cm以内に陥没・深いしわがあった。

【まとめ】専門病棟外でストーマ造設に至る治療経過の長い患者が今後も増加する可能性がある。対象病棟を拡大したストーマケア教育の実施・支援体制の強化が必要である。

INFORMATION

第48回東京ストーマリハビリテーション研究会会告	P.37
第27回東京ストーマリハビリテーション講習会 (JSSCR 認定講習会) 基礎コース受講者募集のご案内	P.38
ストーマリハビリテーション講習会 第13回リーダーシップコースのお知らせ	P.40
施設会員の募集	P.42
東京ストーマリハビリテーション研究会 施設会員名簿	P.43
東京ストーマリハビリテーション研究会 賛助会員名簿	P.44
東京ストーマリハビリテーション研究会 会 則	P.45
東京ストーマリハビリテーション研究会 世話人名簿	P.48
東京ストーマリハビリテーション研究会 当番世話人一覧	P.49
広告協賛企業一覧	P.50
展示企業一覧	P.51
東京ストーマリハビリテーション研究会 HP のご紹介	P.52

第48回東京ストーリーリハビリテーション研究会会告

会 期：2016年9月10日(土)

会 場：東京慈恵会医科大学 大学1号館

主 題：未 定

当番世話人：渡部 通章

(厚木市立病院外科部長、東京慈恵会医科大学外科講師)

E-mail：tsr48th@gmail.com

東京ストーマリハビリテーション研究会 HP のご紹介

研究会主催の東京ストーマリハビリテーション講習会や研究会の告知など、
情報満載です。ぜひ、ご活用ください。

研究会ホームページ

<http://www.tokyostoma.com>

The screenshot shows the homepage of the Tokyo Stoma Rehabilitation Research Society. At the top, the title '東京ストーマリハビリテーション研究会' is displayed in a large, light-colored font against a dark background. Below the title is a navigation menu on the left side, listing various sections: ホーム, ご挨拶, 構成, 一般の方へ, 学術情報, 会則, 事務手続き, リンク, お問合わせ, and 世話人専用ページ. The main content area is divided into two sections: '当研究会の活動' and '事務局よりご連絡'. The '当研究会の活動' section contains a paragraph of text and a list of activities. The '事務局よりご連絡' section contains a list of recent events and their dates.

東京ストーマリハビリテーション研究会

- ▶ ホーム
 - ▶ ご挨拶
- ▶ 構成
- ▶ 一般の方へ
- ▶ 学術情報
- ▶ 会則
- ▶ 事務手続き
- ▶ リンク
- ▶ お問合わせ
- ▶ 世話人専用ページ

当研究会の活動

東京ストーマリハビリテーション研究会は、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会の地方会として、研究会の開催や講習会の開催を行っております。

事務局よりご連絡

- 第47回ストーマリハビリテーション研究会を平成27年9月5日(土) 日本赤十字看護大学 広尾ホールにて開催いたします。
 - 第47回ストーマリハビリテーション研究会ホームページを開く
- 第26回東京ストーマリハビリテーション講習会(JSSCR認定講習会)を平成27年10月2日(金)~10月4日(日)の3日間、帝京大学本部2階 臨床大講堂にて開催します。【日程が確定しました】
- 【終了】 第25回東京ストーマリハビリテーション講習会が平成26年10月11日(土)~10月13日(月・祝)の3日間、東京慈恵会医科大学 大学1号館 6階講堂にて開催されました。
- 【終了】 第46回ストーマリハビリテーション研究会が平成26年9月13日(土) 順天堂大学有山記念講堂にて開催されました。

消化管ストーマ
造設の手引き

第47回東京ストーリーハビリテーション研究会
プログラム・抄録集

発行年月日：2015年8月14日

当番世話人：佐々木 貴代

事務局：日本赤十字社医療センター 専門・認定看護師室
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-22
TEL：03-3400-1311
FAX：03-3400-0174
E-mail：tsr47th@gmail.com

出版： 株式会社セカンド
株式会社セカンド 学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025